

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874002278		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき姫路高岡		
所在地	兵庫県姫路市山吹町1丁目3番25号		
自己評価作成日	平成22年 4 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成22年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi_p/informationPublic.do?JCD=2874002278&SQD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号
訪問調査日	平成22年 5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム全体に、明るく笑みがこぼれる家庭としての雰囲気が溢れている。利用者一人ひとりの暮らしを大切に、家族、地域住民の交流も多く取り入れて楽しみのある暮らしを目指しています。心身の影響が大きく左右する健康面での管理はしっかりと行い、安心で安全な暮らしを築いています。入居者の入れ替わりも少なく、馴染みの環境で、いつまでも暮らし続けられています。職員も幅広い年齢層の中定着率もあり、ホーム全体が緩やかな空間で共に暮らし、助けあいの精神で自然に尊厳あるケアが、できるホームです。

「幸せを叶えるホームづくり」をテーマに、日々、職員は、「家族交流」「地域交流」「地域貢献」「認知症ケアの啓発」の実践に励んでいる(家族同伴での日帰りバスツアーの実施・地域ボランティアの導入・実習生の積極的受入れ・認知症サポーターの養成等)。利用者に張り合いのある毎日を過ごして頂けるような働きかけも多い(役割・協働作業等)。毎日、利用者と職員の笑顔と笑い声が絶えない明るい雰囲気が定着している。地域貢献としては、月1回の介護相談会や医師の協力による健康教室の開催、高校での講師活動、ハローワークの介護雇用事業(厚生労働省介護雇用管理改善委託事業)の冊子・イメージビデオ「いっしょに」のモデルを笑顔いっぱいの利用者とともに務め、同事業の施設見学等のサポートを行い、認知症ケアの啓発活動を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けられるサービスとして、ほおずきの理念と基本方針を毎日唱和し、意識の基に実践している。	ホームテーマの「幸せを叶えるホームづくり」をケアに結びつけるために、職員会議でその実践について話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催し事(秋祭り、地蔵盆、カラオケ大会など)に参加、住民の一員として交流を継続し深めている。	見守り隊実習生やトライやるウィークの中学生を受け入れている。敬老会では、地域の方を招待し利用者と一緒に過ごしてもらったり、秋祭りでは、休憩所として利用して頂く等、積極的に地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談日、認知症サポーターの支援や見守り隊実習生の受け入れ、運営推進会議の中から、地域の方々に理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会の開催で、ホームの力や課題について報告し、意見をサービス向上に活かしている。	職員会議で、事業所の力を活かした地域貢献について話し合っている。医師の協力を得て、地域の方向けに健康講座の開催もされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	消防署、警察交番の担当者、地域包括事業所の担当者と報告、連絡相談を行い、事業所の実情を伝えている。	市の主催するグループホーム連絡会や地域リハビリテーションセンターの研修に参加している。市介護保険課とはキャラバンメイトとしての協力、地域包括支援センターとは、相談対応で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの意識の基、具体的な事例を通じた学びの機会を取り入れ、明言している。	利用者の言葉や行動から、本人に沿った支援をすることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体精神面の変化を、常に注意深く観察し、お互いに注意を払う職場環境に努めている。	高齢者虐待防止に向けて、法人本部からも、全国で起きた虐待事例についての情報等の配信もあり、その都度、職員会議において、全ての職員が情報共有している。	

自己	者三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会は少なく、個々の必要性を見極められる状態ではない。	権利擁護に関する制度については、職員が身近に感じられるように事例を通じての学習を予定している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約又は改訂の際に利用者や家族の不安がないよう十分な時間を取り説明を行い、ホーム機能の理解納得を図っている。	契約時の他、内容変更時においても、利用者や家族に時間を頂き、管理者と職員が丁寧に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声に耳を傾ける仕組みや、意見箱の設置、家族との話し合いの場を多く持ち、小さな事から意見としてサービスに反映できるように取組んでいる。	家族からボランティアを紹介してもらったり、「本人の希望を叶える日をつくる」という家族からの提案により、誕生日に外出や外食の支援をしている。バス旅行の行き先についても家族に希望を聴いている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の参加、定期職員会議、個人面談を通して職員の思いや意見を聞く機会を設け反映している。	マイチャレンジ制度を採用し、代表者と個人面談をするしくみがある。随時、職員からの意見は、管理者が聴く仕組みができています。職員からの提案で日に2回(10:00・16:00)に歌の時間を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や人事考課を数回/年行い、各自が目標ややりがいを持って、給与に反映できるようにワークバランスに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、中堅など職員一人ひとりのケア水準、力量を把握し、個々に合ったOJT,OFFJTの機会作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡会やほおずき法人内の交流会、その他同業者交流を行い、ネットワークづくりや研修会活動を通じてサービスの向上に努めている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は特に、本人の困っている事、不安な事要望を聞けるように24時間シートや、関わる全職員がコミュニケーションを取り、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成者が家族と面談し困っている事、不安な事ことに耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族からの聞き取りを行い、必要なサービスの見極めを行い、カンファレンスの中から支援の方向性を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を引き出し、暮らしの中で助けあいの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などの機会を大切に、家族の絆を最大限に活かせるように、職員と共に本人支援できるように関係作りに努める。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通所介護事業所への訪問や、故郷訪問、地域交流の場への参加を行えるよう関係継続の支援に努める。	ボランティアの支援が定着しており、馴染みの関係づくりが出来ている。友人や家族に手紙や電話ができるように支援している。故郷や馴染みのパチンコ店へ外出されることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が最もよく関われるように、職員のポジションやコミュニケーション作りに努めている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去された方や、在宅復帰された方にもお便りを送ったり、お見舞いや訪問を行い、関係を断ち切らない取り組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にかんファレンスを行い職員間の情報交換に努め、一人ひとりの思いや意向に沿ったケアを検討している。	センター方式と24時間ケアシートを活用して、利用者一人ひとりの好みの暮らし方の把握をしている。困難な場合は、入居以前の生活歴と本人の言動で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報や家族の協力を得て、本人が暮らしてきた生活環境の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録(日課に基づいて)やバイタル記録を通して、暮らしの現状把握を行っている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1～2回や必要時にケアカンファレンスを行い、本人、家族の意向を大切にしながら介護計画やモニタリングを行っている。	家族の来所時を利用して、意向や希望の聞き取りをしている。月2回のカンファレンスで、本人と家族の思いを大切にしながら介護計画を作成している。	計画の見直し前に、家族の思いを更に詳細に聴きとりやすいように、家族に記入して頂くシート等を作成されたら如何でしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアケース記録、カンファレンスを通じて、実践への反映やモニタリング評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、家人のお泊りなど、その時に応じたニーズに対応し柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で行事やボランティアの受け入れ参加型の協働を支援している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望や身体の状態に合わせ、適切な医療を受け入れられるように、納得の得られるかかりつけ医との関係を大切にし、一律にホーム側で決める事は無い。	基本的に受診の支援は家族にお願いしている。本人と家族の希望により、協力医療機関の往診を利用することもある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ターミナル期の方の受け入れを通して、個々の利用者の病状や変化に即相談して、協働の支援が出来るように行っている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や病院関係者との関係づくりを行いながら、安心して治療に専念でき早期退院できるよう、医療機関SWとの協働を行っている。	入院時においては、適切な治療が受けれるように情報提供をしている。また、早期退院に向けて、病院関係者との関係づくりをしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、ご家族やかかりつけ医との話し合いの場を持ち、事業所の機能も説明し理解と支援体制をつくり取組んでいる。	重度化した場合は、状態変化がある都度、家族の意向を確認しながら対応している。訪問診療・訪問看護の支援を得ることもできる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回/1年必ず急変時や事故発生時に備えて、初期対応の訓練を定期的に行い実践に備えている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練の中消防訓練は行っている。災害時避難方法や地域協力体制を築いていく必要あり。	平成22年3月に防災マニュアルを整備した。119番通報時は、職員3名に自動的に連絡できる仕組みになっている。定期の消防訓練以外にも、自主的に通報訓練や消火訓練、心肺蘇生法の研修も実施している。	運営推進会議で災害時の備蓄や地域の方の協力体制についても相談がされている。継続的に話し合われ、安心安全の暮らしへの支援を期待したい。

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての人格尊重をし、プライバシーの保護に努めた言葉掛けに注意をしている。	法人全体の新人研修にマナー研修を位置づけ、年プライバシー保護については、年1回ホーム内研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日の行事、日常の過ごし方など、自己決定できるように希望の引き出しに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日を今のように過ごすことが、その人らしい暮らしを確認支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常、非日常、外出時など、その人らしい暮らしや身だしなみ、お化粧、おしゃれをしてもらうよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむ事が大切な日常の力を発揮できる場として、調理準備、食事、片付けを行っている。	気の合った利用者同士で食卓を囲み、会話をしながら食事ができるように、職員がさりげない見守りをする。食材の買い物から調理、後片付けまで、協働している。楽しみごとの支援として外食も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面での検討や、摂取量、水分量を1日の中で確保できるように、一人ひとりの状態や力に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持として朝夕食後本人の力に応じたケアをしている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かしながら定期的なトイレ誘導をして、排泄の自立支援に向けている。	入居初期や排泄状態に変化がある時は、24時間排泄チャートで状態把握を行い、出来る限りトイレで排泄ができるように、さりげない声掛けや筋力低下を予防するために自転車漕ぎ運動を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の原因や及ぼす影響を理解し、水分や腸の運動促進など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にあわせて、入浴を楽しめるように工夫しているが、時間帯において制限が出てしまう。	毎日(10:30～16:00)の時間帯で、一人ひとりのその日の気持ちにそった入浴の支援をしている。ホーム庭で育てたパンジーの花を利用したパンジー湯やゆず湯、しょうぶ湯等、季節湯も楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を、一人ひとりの習慣や状況に応じて休息したり安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、副作用、用法、用量についての周知に努め、症状の変化の確認に充分注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとを多く持つように(散歩、外出、家事、手作業)支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って出かけることは困難だが、計画的にご本人家族の要望も把握し、協力を得ながら外出できるような支援を行っている。	一人ひとりの気持ちに沿って、散歩や買い物ができるように支援している。ホーム庭で野菜や花を育て、戸外で過ごせる機会をつくっている。家族同伴のバス旅行(加西フラワーセンター等)も実施している。	散歩や買い物、野菜作りや花の水やりは、日常生活リハビリや気晴らしの継続的な支援として、ケアプランに位置づけられたらどうでしょうか。

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は限られている方のみで、本人がお金を持つ事や、使用することの大切さの理解が低く支援は出来ていない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に(年賀状や暑中見舞いなど)電話や手紙の支援を行い、大切な人の関係を途絶えないようにしている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた壁画、お花や装飾で生活感を表現し、居心地の良い空間作りに工夫している。	ベランダでゴーヤを育て自然の力を利用したエコカーテンづくりをしたり等、居心地よく過ごせる環境づくりを工夫している。リビング壁には、外出時の写真を飾り、利用者同士が会話を楽しめるようにしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中での一人の居場所としては、ハード面的に制限があるが、ソファーやエントランスで工夫している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の馴染みの物を取り入れて(畳みや調度品、作品など大切な物)居心地よく過ごせる様に工夫している。」	本人や家族と相談しながら、本や手芸品、鉢植えの植物等を持ち込んでもらっている。本人の状態や希望により、畳敷きにしたり使い易い家具を購入してもらっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺、電灯、引き戸、昔ながらの水道蛇口など、「分かること」「出来る事」を活かし、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		